

令和3年

目黒区教育委員会

第2回定例会会議録

(令和3年1月12日開催)

第2回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 令和3年1月12日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会教育長	関根義孝
	教育委員会教育長職務代行者	笹尾敦夫
	教育委員会委員	櫻井道雄
	教育委員会委員	松村真理子
	教育委員会委員	川嶋春奈

出席職員	教育次長	秋丸俊彦
	教育政策課長	檜本達司
	学校統合推進課長（八雲中央図書館長兼務）	
		関真徳
	学校ICT課長	今村茂範
	学校運営課長	濱下正樹
	学校施設計画課長	岡英雄
	教育指導課長	竹花仁志
	教育支援課長	細野博司
	統括指導主事	片山順也
	統括指導主事	石邑由紀子
	生涯学習課長	千葉富美子

書記		佐藤洋一
		森高健二郎

(議事日程)

日程第1	報告事項	令和3年度目黒区一般会計当初予算原案について
日程第2	報告事項	令和3年度における放射性物質への対応について (案)
日程第3	報告事項	令和2年度教育施策説明会(後期)の実施結果について
日程第4	報告事項	目黒区障害者活躍推進計画(素案)について(案)
日程第5	報告事項	令和3年度以降の児童生徒数・学級数の推計等について
日程第6	報告事項	令和2年度小・中学校卒業式祝辞について
日程第7	報告事項	令和2年度いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議の実施結果について
日程第8	報告事項	新型コロナウイルス感染拡大防止のための目黒区立八ヶ岳林間学園の臨時休園について
日程第9	報告事項	新型コロナウイルス感染症拡大に伴う区立学校・園の対応について
日程第10	報告事項	区立学校における新型コロナウイルス感染者の発生について
日程第11	報告事項	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための集会施設等の開館時間短縮等について
日程第12	報告事項	新型コロナウイルス感染拡大防止のための学校開放事業及び目黒区立学校施設使用条例に基づく学校施設使用の中止について

資料配布

- ・令和2年度目黒区学力調査実施結果報告書

(午前9時30分開会)

- 教育長 令和3年第2回目黒区教育委員会定例会を開会いたします。本日の欠席委員、欠席職員はおりません。署名委員は、笹尾委員です。
- それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1 令和3年度目黒区一般会計当初予算原案について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等はございませんか。特にないようですのでこの報告を受けました。次に日程第2を議題とします。

(日程第2 令和3年度における放射性物質への対応について(案)(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等はございませんか。特にないようですのでこの報告を受けました。次に日程第3を議題とします。

(日程第3 令和2年度教育施策説明会(後期)の実施結果について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等はございませんか。
- 委員 私は、11月28日にオンラインで説明会に参加しました。以前、会場で参加したこともあります。オンライン視聴ですと職員の顔がよく見えたことがよかったです。会場からの質問に対して誠実に答えていることが表情から伺えました。
- ただ、オンライン視聴ですと、会場の来場者数が分からないので、質問の受付時間が短く感じました。説明会の冒頭や最後に来場者数とオンライン視聴者数を述べていただけると嬉しいです。
- 説明員 今回初めての試みとしてオンライン視聴を実施しましたが、委員のおっしゃるとおり、オンライン上では会場に何名参加してい

るのか把握できない状況でございます。今後、進行の中で、参加者数について言及するなど、対応を検討してまいりたいと思います。

- 教育長            その他ご質問等ございますか。  
                      特にないようですのでこの報告を受けました。  
                      次に日程第4を議題とします。

(日程第4        目黒区障害者活躍推進計画(素案)について(案)(報告事項))

- 説明員            (資料により説明)
- 教育長            この件についてご質問等はございませんか。
- 委員             資料の素案の3ページのアンケートの調査結果を見ますと、設備環境の項目が一番満足度が低くなっています。具体的にどのような設備環境について不足を感じられているのでしょうか。また、この結果を踏まえて、具体的に設備環境の整備を検討されていますか。
- 説明員            アンケートの調査結果についてですが、回答者が障害を持つ職員でございますので、動線などで、不便に感じると回答しているものがございます。  
                      この結果を踏まえ、可能な限りレイアウトの修正などを行いますが、その他に設備面でどのような対応を行えるか、アンケートなどにより職員の声を集め、改善できるものは改善していきたいと考えております。
- 委員             設備面を充実させるためには、費用がかかりますので、アンケートの結果を踏まえて必要な予算を取るなど、対応を進めてください。
- 説明員            全庁的な対応となりますので、アンケートなどを行いながら、意見を取りまとめて必要な措置を検討していきたいと思います。
- 委員             資料の素案の2ページに実際の障害者雇用率が記載されていますが、法定雇用率よりも低い数値となっています。これは定着率の問題なののでしょうか、それとも採用数の確保の問題なののでしょうか。どこに原因があり、達成できないのでしょうか。
- 説明員            採用につきましては、区長部局で特別区人事・厚生事務組合を通じて一括して採用を行っております。  
                      ただ、23区全体で採用を行っているため、目黒区に適した人材や、採用計画どおりにいかない部分もあると考えてございます。そのため、常勤職員だけでなく、今後は、会計年度任用職員も含めた

形で採用していく必要もあると考えております。

なお、定着率についてですが、公務員として、区の職場環境に適した人材を採用していることから、早期に退職する例は少ないと考えております。

○委員 仕事の内容については、満足度が高いと調査結果で出ています。目黒区で働く中で、障害を持つ職員にとってどのような点が問題となるのか考えてみたところ、職場環境が大きな問題ではないのかと思いました。例えば、窓口業務では、接客のために素早く対応しなければならないところ、障害を持つ職員が対応を行う上での課題が十分に改善されていないのではないかと思います。

障害者の方々が目黒区で働く意欲を持続できるよう、雇用率を上げるため、これまで以上に職場環境の改善に努めていく必要があると思います。

○説明員 只今委員のおっしゃった障害を持つ職員が意欲を持って仕事を行える環境の整備につきましては、現在の執務環境等で不便な部分もございますが、社会的にリモートワークなど、従来のものとは異なる形で職務環境の整備も進んできているところをございます。そのような取組を進めていく中で、障害を持つ職員にとっての職場環境を総合的に充実させ、意欲を持って働ける環境を整備していく必要があると考えてございます。今後、アンケートの調査結果なども踏まえながら、計画を進めてまいりたいと思います。

○教育長 その他ご質問等ございますか。  
特にないようですのでこの報告を受けました。  
次に、日程第5を議題とします。

(日程第5 令和3年度以降の児童生徒数・学級数の推計等について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等ございませんか。

○委員 説明によると、令和4年度に普通教室の数が足りない学校が小学校で1校、中学校で1校出てくることが予想されるとのことですが、具体的な対策は検討されていますか。

○説明員 令和4年度の時点で烏森小学校が1教室足りないと予想されますが、次年度の予算要求の中で、現状で教室と異なる用途で使われている部屋を普通教室として利用できるよう改修する計画を立て

てございますので、今後2、3年についてはそのような対応で普通教室の数を確保していくことを考えております。

○委員　大岡山小学校については、令和5年度以降1教室不足することが予想されています。先ほどの説明のとおり、既存の他の目的で使用している部屋を普通教室へ用途変更することにより対応する場合、資料の表の中の普通教室可能数の23が、変更後は24となるのでしょうか。

○説明員　この資料の普通教室可能数は、令和2年度末の整備状況の数字を掲載してございまして、先ほど令和3年度に予算要求をしていると申し上げたところですが、その予算がつき、整備ができた段階での数字につきましては、今後、資料の中でお示しできるものと考えております。

○委員　小学校の場合は不足する教室は1つですが、中学校の場合は3教室不足する学校もあると予想されています。この場合も、同じように予算がつけば用途変更により対応可能なのでしょうか。

○説明員　建物の全体のボリュームも決まっておりますので、改修により対応できない学校も確かにございます。そういった学校については運用面も含めて検討していかなければいけないと考えてございまして、例えば目黒中央中学校は教科センター方式を採り入れてございますので、全体の面積は広いのですけれども、既存の他目的による部屋を普通教室への変更により対応することが困難になるおそれもあると考えております。

○委員　今でも教員を確保するのに苦労をなさっていると思いますが、これから少子高齢化が加速し、働き手が少なくなると予想されています。そのためのために、教員の確保について長期的な計画を立てる必要があると思いますが、それについて事務局の見解を教えてください。

○説明員　教員の確保につきましては、東京都教育委員会において行われるものでございます。目黒区で学級数が増えると、学級数分の教員数が増えるなどの対応が必要となりますので、適切な対応が図られるよう東京都教育委員会に確認をしまいたいと考えてございます。

○教育長　その他ご質問等ございますか。  
特にないようですのでこの報告を受けました。  
次に日程第6を議題とします。

(日程第6 令和2年度小・中学校卒業式祝辞について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 前回、小学校、中学校ともに、題材を「はやぶさ2」にすることに決定いたしました。それを受けて、本日、卒業式祝辞の具体的な文案に関する協議の1回目となります。
- それでは、小学校、中学校それぞれの文案について、委員の皆様のご意見をいただきたいと思ひます。
- これまでと同様に、委員の皆様順番にご意見を伺う形で進めたいと思ひます。
- それでは、よろしくお願ひいたします。
- 委員 小学校の祝辞も中学校の祝辞も、どちらもよくできていると思ひました。
- 題材が同じですので、小学校向けと中学校向けの内容を見比べて気づいた点を述べたいと思ひます。
- まず、小学校の祝辞に記載されている「友好都市である宮城県角田市」という文言が中学校の祝辞にはなかったため、中学校の祝辞にも加えたほうがよいと思ひました。
- また、小学校の祝辞の⑤のところですが、表現が工夫されており、3行目の「過酷な開発ですり減らした精神を、探究心という水で潤し」というところが素敵な文章だと思ひました。この文章が中学校の祝辞にはないのですが、これは内容の重複を避けるため、意図的に外されたのでしょうか。高度な表現ですので、どちらかに記載するのでしたら、中学校の祝辞のほうがよいと思ひました。
- さらに、「過酷な開発ですり減らした精神」という文言ですが、過酷な開発とは、開発の作業が肉体的にも大変で過酷という意味でしょうか。そこが少し分かりにくいと思ひました。
- 最後に、この祝辞が完成した際は、紙で掲示するとともに、子どもたちへ配布すると伺ひましたが、ビデオメッセージを流して子どもたちへ聞かせるということはどうでしょうか。例えば教育長が代表されてビデオメッセージを収録し、それを当日流していただければ、より卒業生の方たちの印象に残るのではないかとと思ひました。
- 説明員 小学校と中学校で内容に重複がないよう配慮して作成いたしました。小学校の祝辞では、粘り強く取り組むことに関するエピソードを入れており、中学校の祝辞では、未来を見据えるエピソードを

入れております。

角田市の記載や過酷な開発の意味などのご指摘については、改善してまいります。ありがとうございます。

○委員

祝辞を掲示するとともに子どもたちへ配布すると説明を受けましたが、全ての子どもたちが最後まで読んでくれるか気になりましたので、読みやすくするための工夫がほしいと思いました。

また、文章については、特に気になった点はありませんが、先ほど委員のおっしゃった「過酷な開発ですり減らした精神を、探究心という水で潤し」というところは素敵な表現だと思いました。表現が難しいので、どちらかと言えば中学生向けの表現だと思いました。

○委員

例年と異なり、本年度の祝辞は掲示や配付により行われるので、文章として記録されることとなります。そのため、文章の語句や構成については、厳密にチェックする必要があると思いました。

まず、小学校、中学校の祝辞に共通していますが、③のところで「試行錯誤」という言葉が入っていますが、小学校のほうでは粘り強く試行錯誤と記載されている一方、中学校のほうでは単純に試行錯誤と記載されていますので、何らか補足する言葉があった方がよいと思いました。

次に、小学校の祝辞では、④で角田市で開発された旨が記載されていますが、中学校の祝辞では記載されていないので、小学校と同様の表記に合わせた方がよいと思いました。

次に、主語述語の話になりますが、小学校祝辞の④の10行目で、「カプセルが令和二年に地球へ帰還しました」と記載されています。一方、中学校の祝辞では、④で「はやぶさ2」を主語として、地球へ帰還させることに世界で初めて成功したと表記されています。この点は中学校の祝辞の文章に合わせた方がよいと思いました。

次に、小学校の祝辞では、④の後ろから2行目で、「プロジェクトの技術が世界の国々から注目されています」と記載されていますが、「プロジェクトの技術」が何を示しているのか不明であるので、技術の具体例を記載したほうがよいと思いました。

次に、他の委員がご指摘になった「過酷な開発ですり減らした精神を」という文章ですが、小学校の祝辞だけでなく、中学校の祝辞にも加えたいと思いました。

最後に、中学校の祝辞の⑥の「再び地球を離れ、新しい小惑星探

査に出発しています」というところをもう少しインパクトの強い表現を改めてほしいです。

○委員 小学校の祝辞と中学校の祝辞どちらにも「世界で初めて砂や石を採取したはやぶさ2」と記載されていますが、はやぶさ1は採取しなかったのか気になりました。

確認結果によりますが、はやぶさ2は砂や石を採取したが、はやぶさ1は採取できなかったという話になりかねないので、私ははやぶさ1とはやぶさ2を再度比較して、共通性と違いを確認した上で文章を構成したほうがよいと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

4人の委員の方から一つ一つの具体的な語句の使い方について、また、文章全体の流れについて、さらにビデオメッセージなど伝え方のアイデアについてもご意見をいただきました。

いただいたご意見を持ち帰らせていただきまして、それを基にして、小学校、中学校それぞれの文案にまた必要な修正を施しまして、次回、再度お示しし、それについてさらにご意見をいただくことといたしますので、よろしく願いいたします。

以上でこの報告を受けたことといたします。

次に日程第7を議題とします。

(日程第7 令和2年度いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議の実施結果について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等はございませんか。

○委員 私も何回か参観していますが、大人が参観する中で子どもたちがいじめについて議論するので、どのような結論を出すべきなのか子どもたちは最初から理解しているように思います。この会議を有意義なものとするためには、子どもたちの本音を引き出せるかどうかにかかっています。本音を引き出すためには、大人の言うことを素直に聞くタイプの子供だけではなく、異なる考えを持つ子どもたちに集まってもらい、議論させるなどの工夫が必要だと思えます。是非その点を事務局で検討していただきたいです。

○説明員 お話を伺いまして、委員ご指摘の子どもたちの本音を引き出すという視点は、大変重要なものだと思います。私も数校参観いたしまして、具体的な事例を用意するなど、テーマの与え方により

本音を引き出せる可能性を高めることができると感じました。今後、そのような工夫に取り組み、改善に向けて検討を進めてまいりたいと思います。

○委員 私もこの会議を参観し、幾つかの教室を回り、生徒たちの様子を見ておりました。まさに先の委員のおっしゃるとおり、本音を引き出すことが最も重要なことであると私も思いました。

ところで、参観した教室の一つで、中学生同士の議論が白熱しており、そこでの論者の取り組みが素晴らしかったので、お伝えします。その論者は、自分の意見だけでなく、相手の意見もかみ砕き、小学生にも理解できるよう努めて取り組んでいました。とても難しいことですが、聞き手を意識した素晴らしい取り組みであり、そのような取り組みを行う論者が増えていくと、会議がよりよいものになると思いました。

○説明員 論者の進行が上手ですと、グループによっては小学生の意見も吸い上げ、議論や意見交換が活発になることがあります。そういった事例を全体で共有するとともに、中学生のファシリテーション能力を向上させることが重要であると思えます。

現在、学校で対話的な学びを充実させることが難しい状況ですが、今後も対話的な学びは重要であると思えますので、普段の学校の授業の中で、対話の場面を想定した指導を行うよう各学校へ伝えていきたいと考えてございます。

○教育長 その他ご質問等ございますか。

特にないようですのでこの報告を受けました。

次に、日程第8から第12までの5件につきましては、いずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止対応に関する報告で、関連していますので、一括して議題とします。なお、質疑も一括して行うことといたします。

(日程第8 新型コロナウイルス感染拡大防止のための目黒区立八ヶ岳林間学園の臨時休園について(報告事項))

(日程第9 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う区立学校・園の対応について(報告事項))

(日程第10 区立学校における新型コロナウイルス感染者の発生について(報告事項))

(日程第11 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための集会施設等の開館時間短縮等について(報告事項))

(日程第12 新型コロナウイルス感染拡大防止のための学校開放事業及び目黒区立学校施設使用条例に基づく学校施設使用の中止について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○教育長 これら5件についてご質問等がございますか。

○委員 子どもたちの遊び場所についてお願いがあります。

先日、子どもたちが道路で自転車やボール遊びを数時間行っていました。道路上での遊びは、子どもの安全面や交通への影響が心配です。このような状況を改善するため、校庭を子どもたちの遊び場として開放していただくことはできないでしょうか。感染対策もあり、難しいことだと思いますが、是非検討いただきたいです。

○説明員 緊急事態宣言発令中の子どもたちの放課後等における遊び場所についてでございますが、3連休中については、東京都知事からの要請であるステイホームの徹底を学校や保護者に通知しているところでございます。

一方で、放課後の遊びにつきましては、ランドセルひろばは継続して実施しておりますので、各学校で授業終了後、希望者は放課後も遊べる形になってございます。

○教育長 その他ご質問等ございますか。

特にないようですのでこれら5件の報告を受けました。

〔 資料配布  
・令和2年度目黒区学力調査実施結果報告書 〕

○教育長 その他なにかございますか。

○説明員 冬季休業期間明けの児童生徒の欠席状況について説明いたします。

平成30年度より、各小中学校・園に対し、各休業期間明けの幼児・児童・生徒の欠席状況の把握の徹底を促すとともに、休業明け初日の欠席状況について報告を求めています。

本日は冬季休業期間明けの小中学校における1月8日時点の欠席状況について口頭にてご説明いたします。

幼稚園、こども園につきましては、本日が始業式であるため、幼稚園、こども園を含めた欠席状況の詳細につきましては、次回ご報告させていただく予定です。

冬季休業明けの欠席者は、小学校では全児童の4.8%に当たる484名、中学校では全生徒の6.5%に当たる180名でした。

欠席状況の傾向といたしましては、小学校では、家庭の事情が理由である欠席が最も多く、欠席した児童484名のうち33.3%に当たります。中学校では、長期欠席予兆者や不登校を含む長期欠席者数が最も多く、欠席した生徒140名のうち66.5%となっております。

また、令和2年度の欠席状況につきましては新型コロナウイルス感染症対策を理由とした自宅待機等の児童生徒を把握しております。冬季休業明けに感染症対策により欠席している児童生徒は小学校では166名で、欠席した児童の34.2%に当たります。中学校では18名で欠席した生徒の10%に当たります。自宅待機の中には児童等が感染者の濃厚接触者に特定されている場合や家族に発熱等の症状がある場合等も含まれております。

○教育長

その他なにかございますか。

○説明員

昨日、成人の日のつどいの開催を中止いたしました。午前9時に区のホームページ上から動画サイトへリンクを貼り、動画が見られるようにいたしました。内容は区長挨拶、議長お祝いの言葉、お祝いメッセージ、新成人の言葉です。

当日のパーシモンホールでは駅や会場周辺に警備員を配置し、職員3名も見守りを行いました。新成人の方は15名程度、記念に写真を撮って帰られるなどしてはりましたが、特に混乱はございませんでした。

○教育長

その他なにかございますか。

以上で本日の定例会を閉会します。

(午前11時20分閉会)